

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第60回 ●

祝300号！60回

ついに珠友も300号を迎えることとなった。そしてこの連載も60回となった。珠友がスタートしたのが私が生まれるちよっと前だから、もう50年近く続いているということになる。私が初めて京都連珠会に参加したのは確か昭和59年2月だと思うので、珠友の編集に参加したのはおそらくその4月（5月発行の126号）だと思う。その頃を振り返ってみたい。

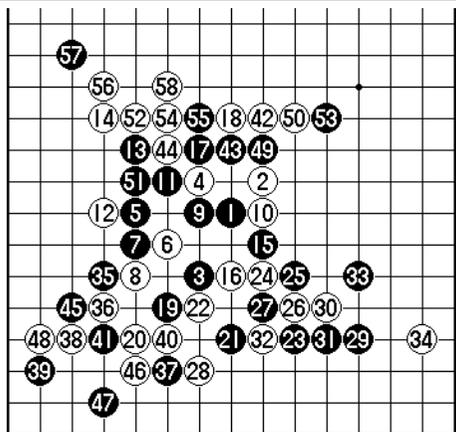
当時の珠友は今と違ってガリ版刷りだった。また、棋譜はいちいち手作りで作っていた。棋譜のシール貼りは主に山上勝美さんが担当し、清書は早川ご夫妻、奥村豊彦さん、大井耕三さんが担当していた。当時

は1号作るのに大変な手間がかかっていた。奇数月の1日に発行だから、偶数月の中旬にはもう始めなければいけない。まず最初にペーじ割り、次にそれに沿って原稿作成、清書、印刷、郵送と大変な作業が待っている。特に印刷はインク量の調節が難しく、早川さんでなければなかなか難しかった。そのうち西園さんがペーじ割りの役割もするようになり、後に早川さんから編集長を引き継いだ。このように、今に比べて大変な作業ではあったが、当時は大変活気があった。山上さんがムードメーカーで、「五段になるには競輪学校に行かないかん（当時の名人戦は伊豆の競輪学校で行われていた）」などの軽口を叩いて皆を笑わせていた。对象的に無口な奥村さんがにこしながら「サボったらあかんぞ」とぼそつと言ったりして、本当に

和気あいあいとやっていた。それもこれも1冊が完成するのが皆楽しみだったからだ。封筒詰めをして近くのポストに出しに行くのだが、200通ぐらいあったから1つのポストでは入りきららず別のポストを探して入れたぐらいだ。

たまたま手元に27年前の珠友136号があり、その中で私も記事を書いている。「名人の素顔」という題だが、当時の中村名人のことを書いている。（今もまだ中村名人というのがまたすごいことだ）

当時の私は名月一間飛びの研究をしていたのだが、東京遠征の時にそれを中村名人にかけてみた。当時の中村名人の家に遊びに行つて、1泊させてもらった思いがあつた。棋譜を再掲するが、黒25が悪く白58まで白勝ちとなった。非公式であるが中村名人は手を抜く人ではないので、この1



勝は大変な自信になった。研究をしつかりやれば、名人にもなれる可能性がある。とこの時思った。以後研究を大切にする姿勢はこの時から続いている。同時に、京都の選手は和気あいあい、実戦を楽しんではいるが、切磋琢磨しないと関東勢（中村、相楽、奈良各氏が代表であつたが）には勝てないと思ひ、京都王位戦を立ち上げた。今も続いているのは嬉しい限りである。しかしながら、京都連珠会で楽しむ人の数は近年減

っている。当時は毎月の定例会の他に早川道場もあり、少年指導もあった。京都連珠会が活発にならないと珠友も盛り上がらない。ぜひ新人の発掘、昔楽しんでいの方の復活を期待している。

●当連載も、もう10年！

珠友30号と共に、実は当連載も記念すべき60回目となった。年6回の発行なので、つまりは10年ということになる。何か一つのことを始めたら、10年は続けたいと常々思っているのと、とりあえず一つの壁を越えた。最近では連珠世界の「ドイツ便り」と内容がかぶることが多く、ネタを探すのに苦労している。しかし、インターネットの発達で最近はいろんな情報が入るようになって助かっている。

は前年よりさらに早く、3月末の週末が4連休になった。今回は日本から妻と娘（次女）を呼び寄せて旅行に行くことにした。

今年の欧州は例年になく寒かったようで、3月なのに雪が降ったりしていた。イースター時も最低気温がちょうど0℃ぐらいで、日本とはかなり違ったようだった。今回は欧州は春が短い。

今回はパリに行くことにした。パリは欧州一の観光地で、行く所が一杯ある。今回はモンサンミッシェルをメインとし、あとはパリ市内を観光することにした。3月30日の午前5時過ぎに羽田便でやってきたのだが、実は前日まで出張でロンドンに行っており、ほとんど休息なしであった。その日の夕方にパリに移動し、まずは夜のエッフェル塔へ。毎正時に5分間、きらきらイリュミネーションがあるのだが、ちょうどそれが見

れた。大満足の1日。翌日はルーブル美術館へ。入るのに混雑するとは聞いていたが、30分以上入るのに（チケットを買うのに）並ばされた。しかし、日本の行楽地の方がもっと混雑しているという印象だ。やはり日本の方が異常である。モナリザを見るのにまた時間がかかった。まん前まで行き写真を20枚ぐらい撮ったが、ガラス越しなのでなかなかうまく撮れない。ベストショットを掲載しておく。



お昼からは再びエッフェル塔へ。3か所入り口があるのだが、知らずに並んで

いたらその入り口は階段専用だった。およそ700段の階段を登り、その後はエレベーターで一番高い所まで行く。眺めはいいが、あく疲れた。翌日はいよいよモンサンミッシェルへ。ツアーを申し込んでいたのでバスで楽々行けた。やっぱりツアーは楽でいい。



やっぱり旅行が欧州の醍醐味だ。いつ帰国するかわからないので、いろんな所に行けるだけ行ってみようと思っっている。